

政務活動費 報告書【会派支出】

会派名

次世代長野

3 月分

支払日	令和 7年 3月 25日			
支払先	株式会社蔦友			
活動に要 した経費	使途区分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)			円
	研究研修費			
	調査旅費			
	資料作成費	印刷代	コピー使用料 R6.4～R7.3	10,378
	資料購入費			
	広報・広聴費			
	人件費			
	事務所費			
	その他の経費			
合 計			10,378 円	
(領収書添付欄)				

領収証

No. 068305

長野市議会 次世代長野 様

7 年 3 月 25 日

金額									
	9	1	0	3	7	8	×		

但 2012 年度新入会 (4月4日3月5日)

上記正に領収いたしました

内
消費税等

現金
小切手

株式
会社

篤友

〒381-0022 長野市大字太豆島字中ノ島2923
TEL <026> 214-3311
FAX <026> 214-7750

(金額を訂正したものは無効)

隨時

隨時

得意先CD

長江中戰云 凶惡代長江 保

八十二銀行

		

繰越額 [A]				今回御買上額 [B]		
前回御請求額	今回御入金額	今回調整額	差引繰越額	今回御買上額	今回消費税	御買上額合計
				735	73	808

今回御請求額	
[A]+[B]	
	808

※：軽減税率対象品目

隨時

隨時

隨時

得意先CD

登録番号 T5100001002030

		

隨時

得意先CD

381-0022

長野市大字大豆島字中ノ島2923

TEL (026) 214-3311

FAX (026) 214-7750

取引銀行

八十二銀行

登録番号 T5100001002030

毎度お引き立てありがとうございます。今月の御請求額は下記の通りです。

		

※：軽減税率対象品目 随時

※：軽減税率対象品目

隨時

得意先CD

大豆島字中ノ島292
14-3311
14-7750

長野市大字大豆島字中ノ島2923

FAX (026) 214-7750

取引銀行

八十二銀行

登録番号 T5100001002030

毎度お引き立てありがとうございます。今月の御請求額は下記の通りです。

今回御請求額	
[A]+[B]	
	1,600

		

※：軽減税率対象品目

隨時

隨時

得意先CD

大豆島字中ノ島292
14-3311
14-7750

長野市大字大豆島字中ノ島2923

FAX (026) 214-7750

取引銀行

八十二銀行

登録番号 T5100001002030

毎度お引き立てありがとうございます。今月の御請求額は下記の通りです。

隨時

隨時

隨時

政務活動費 報告書【会派支出】

会派名 次世代長野

3 月分

支払日	令和 7年 3月 26日			
支払先	JR東日本			
活動に要した経費	使途区分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)			円
	研究研修費	交通費	長野駅→名古屋駅 (自由席)	6,930
	調査旅費			
	資料作成費			
	資料購入費			
	広報・広聴費			
	人件費			
	事務所費			
	その他の経費			
合 計				6,930 円

(領収書添付欄)

領収証 次世代長野 様

ご利用日付 2025年03月26日

時刻 07時21分

取引内容: 乗車券類 (税率: 10%)

購入金額 : 金 6 9 3 0 円

お支払方法 内訳

現金 : 金 6 9 3 0 円

伝票番号: 65599

●この領収証は大切に保存してください。

●ご利用ありがとうございます。

長野駅 券305発行

登録番号 T9011001029597 JR東日本

政務活動費 報告書【会派支出】

会派名

次世代長野

3 月分

支払日	令和 7年 3月 26日			
支払先	近畿日本鉄道株式会社			
活動に要 した経費	使途区分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)			円
	研究研修費	交通費	近鉄名古屋駅←→近鉄四日市駅 往復分 ¥760×2	1,520
	調査旅費			
	資料作成費			
	資料購入費			
	広報・広聴費			
	人件費			
	事務所費			
	その他の経費			
合 計			1,520 円	
(領収書添付欄)				

(近畿日本鉄道)
KINTETSU-NAGOYA

近鉄線

25. 3. 26 近鉄名古屋 → 760円区間

当日限り有効
下車前途無効

91(03) 0459 10.55

領 収 書 №.22791

ご利用日付: 2025年-3月26日

自署 次世代長野 様

購入商品: 自給券

決済区分: 現金

金760円

(10%対象)	691円) 消費税	69円
(内訳)	乗車券類	760円
(10%対象)	691円) 消費税	69円
	手数料	0円
(10%対象)	0円) 消費税	0円
	SF	0円
	デビット	0円

・上記金額確かに領収いたしました
・ご利用ありがとうございます

印紙税申告納
付につき天王寺
税務署承認済

近畿日本鉄道株式会社 TS120001183629
2025-3/26 17:12 近鉄四日市駅 9113号機発行

政務活動費 報告書【会派支出】

会派名

次世代長野

3 月分

支払日	令和 7年 3月 26日			
支払先	東海旅客鉄道株式会社			
活動に要 した経費	使途区分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)			円
	研究研修費	交通費	名古屋駅→長野駅 (指定席)	7,660
	調査旅費			
	資料作成費			
	資料購入費			
	広報・広聴費			
	人件費			
	事務所費			
	その他の経費			
合 計			7,660 円	

(領収書添付欄)

駅-No 51301160 領収書-No 60
窓口-No 9

領 収 書

次世代長野 様

金額 ￥7,660円
「消費税等込み・10%」

但し、乗車券類(クレジット扱い)として

2025年 3月26日
東海旅客鉄道株式会社
登録番号: T3180001031569

ご利用いただきましてありがとうございます

印 紙 税 申 告 納
付につき名古屋中村
税 務 署 承 認 済

名古屋駅
現金出納社員

駅-No 51301160 領収書-No 60
窓口-No 9

領 収 書

次世代長野 様

金額 ￥7,660円
「消費税等込み・10%」

但し、乗車券類(クレジット扱い)として

2025年 3月26日
東海旅客鉄道株式会社
登録番号: T3180001031569

ご利用いただきましてありがとうございます

印 紙 税 申 告 納
付につき名古屋中村
税 務 署 承 認 済

名古屋駅
現金出納社員

次世代長野政務活動行政視察(No.1)

第9回全国自治体議会改革推進シンポジウム

令和7年3月26日(水)

三重県四日市市

(近鉄四日市駅) () ()

会場:都ホテル四日市(三重県四日市市市安島1-3-38)

< 繁忙期 >

旅費額明細

鉄	行先	自 長野	經由	經由	經由	經由	至 名古屋	運賃	グリーン料金
	路程	222.4 km	自由席	km	km	km	222.4 km	4,510 円	0 円
	急行料金	特別職 2,420 円		円	円	円	計 2,420 円	小計 特 6,930 円	
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
	行先	自 近鉄名古屋	經由	經由	經由	經由	至 近鉄四日市	運賃	グリーン料金
	路程	36.9 km		km	私鉄(近鉄)	km	36.9 km	760 円	0 円
	急行料金	特別職 円		円		円	計 0 円	小計 特 760 円	
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
	行先	自 近鉄四日市	經由	經由	經由	經由	至 近鉄名古屋	運賃	グリーン料金
	路程	36.9 km		km	私鉄(近鉄)	km	36.9 km	760 円	0 円
船	急行料金	特別職 円		円		円	計 0 円	小計 特 760 円	
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
	行先	自 名古屋	經由	經由	經由	經由	至 長野	運賃	グリーン料金
	路程	222.4 km		km	km	km	222.4 km	4,510 円	0 円
	急行料金	特別職 3,150 円		円	円	円	計 3,150 円	小計 特 7,660 円	
	一般職	G 円	G 指定席	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
	行先	自	經由	經由	經由	經由	至	運賃	グリーン料金
	路程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円
	急行料金	特別職 円		円	円	円	計 0 円	小計 特 0 円	
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
賃	行先	自	經由	經由	經由	經由	至	運賃	グリーン料金
	路程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円
	急行料金	特別職 円		円	円	円	計 0 円	小計 特 0 円	
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
	行先	自	經由	經由	經由	經由	至	運賃	グリーン料金
	路程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円
	急行料金	特別職 円		円	円	円	計 0 円	小計 特 0 円	
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
	行先	自	經由	經由	經由	經由	至	運賃	グリーン料金
	路程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円
備考	急行料金	特別職 円		円	円	円	計 0 円	小計 特 0 円	
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
								計 特 16,110	
								—	0 円
車賃	自 至	円	自 至	円	計	円			
航空賃	自 至	円	自 至	円	計	円			
日当	定額1日	円	日	計 特	0 円				
宿泊料	県内・県外 定額・指定1夜	円	1 夜	計 特	0 円				
食卓料	県内・県外 定額・指定1夜	円	夜	—	0 円				
備考	☐ 宿泊料は、一夜 定額14,800円(特別職)を上限とする実費。 ☐ 高級旅費(条例第22条) ☐ 調整(条例第24条第4号適用) ☐ 半日当								合計
									特別職
									16,110 円
									一般職
								円	
								会計課予備審査処理欄	

第9回全国自治体議会改革推進シンポジウムの開催について

1 開催趣旨

三重県議会では、議会改革の取組を率先して行いつつ、全国の自治体議会に向けて積極的に発信し、改革の輪を広げる活動に取り組んできました。

人口減少と少子高齢化が進展するとともに、住民ニーズや地域課題が多様化・複雑化する中、多様な人材の活躍等による自治体議会の活性化を図るため、自治体議会議員が集まり具体的な取組事例や今後の展開等について意見交換し交流・連携を行うことで更なる議会改革の推進に資することを目的にシンポジウムを開催します。

2 日時・場所

令和7年3月26日(水)

シンポジウム	13:00～16:45	都ホテル四日市4階「伊勢の間」
交流会	17:00～18:30	都ホテル四日市3階「鈴鹿の間」

3 テーマ

「議会改革の推進と女性や若者等多様な人材の活躍」

4 内容

(1) 開会挨拶 (13:00～13:10)

(2) 基調講演 (13:10～13:40)

演題：「多様な意見を反映する議会へ」

講師：大山 礼子 (おおやま れいこ) 氏 (駒澤大学名誉教授)

(3) パネルディスカッション (13:40～16:00)

パネリスト

奥野 詠子 (おくの えいこ) 氏 (富山県議会議員)

辻 弘之 (つじ ひろし) 氏 (登別市議会議員)

辻 裕登 (つじ ひろと) 氏 (四日市市議会議員)

吉田 敬子 (よしだ けいこ) 氏 (岩手県議会議員)

稲垣 昭義 (いながき あきよし) (三重県議会議員)

コーディネーター

大山 礼子 氏 (駒澤大学名誉教授)

(4) 三重県議会の取組について (16:10～16:40)

・議会活動計画の取組について

・みえ高校生県議会の取組について

(5) シンポジウム閉会挨拶 (16:40～16:45)

(6) 交流会 (17:00～18:30)

5 主催等

主 催 三重県議会

企画・実施 三重県議会議会改革推進会議

後 援 全国都道府県議会議員連合、全国市議会議員連合、全国町村議会議員連合、
三重県市議会議員連合、三重県町村議会議員連合

6 参加申込方法等

対 象 全国の自治体議会関係者（議員、行政職員、有識者等）

定 員 約 300 名（先着順）

※席数に限りがありますが一般の方も参加いただけます。（50 名程度）

参 加 費 ○シンポジウム：無料

—交流会：7,000 円— ^{不参加}

申込方法 申込フォームに必要事項をご記入いただき、お申込みください。

募集期間 令和 7 年 1 月 1 7 日から令和 7 年 2 月 2 8 日まで

申込フォーム URL : <https://logoform.jp/form/8vMX/833521>



二次元コード

シンポジウム報告書

■主催

三重県議会

■開催日

R7年3月26日(水)

■テーマ

第9回全国自治体議会改革推進シンポジウム

「議会改革の推進と女性や若者等多様な人材の活躍」

■講師

大山 礼子（駒澤大学名誉教授）

奥野 詠子（富山県議） 辻 弘之（登別市議） 辻 裕登（四日市市議）

吉田 敬子（岩手県議） 稲垣 昭義（三重県議）

三谷 哲央（三重県議） 小林 正人（三重県議）

■考察

・大山教授の基調講演では全国の地方議会が抱える「議会不信」と「なり手不足」について、総務省での検討会でも議論されている知見から、多様性とは言い難い現状と投票率の低下から見える住民と議会の乖離について問題点を挙げていた。

女性や若者など議会構成員の多様化を進めることで多様な住民意見が反映されることが期待できるそのために、「人材を育てる」「立候補を支援する」「選挙制度を見直す」ということを提言されていた。被選挙権の引き下げは当たり前のこと、新人候補者が活動しやすい選挙の在り方に変革していく必要があるという点は個人的に完全に同意見であり、制度の変革のためには様々な議会の意見書として国に提案していく必要があると感じた。また、社会をよりよくするための選択肢として議員になるという思いを持った方をどうやって支援していくのか、それは既存議員が保身走らずこの町全体のために何をすべきか考えて動ける議員を増やすために意識改革が必要と感じる。

議会への関心を高めるために、議員の活動や成果が見えづらいがゆえに安易に報酬引き下げや定数削減を行うことは議会機能の低下につながるためおすすめされず、それより情報の発信や提供ではなく住民目線に立った共有を行うことの重要性や、社会教育としての出前事業など学生時から政治やまちづくりについて考えることが重要であり、結果地元愛の醸成にも繋がる取り組みであると考えている。

総じて、教授の取り組みや考え方に大変感銘を受け、休憩時間には名刺交換とご挨拶をすることができ、若手議員としての悩み相談もさせてもらい大変有意義であった。

・全国地方議員のパネルディスカッションにおいては各議員や議会の特徴的な取り組みについて説明された。特に注目していたのは登別市議長の辻氏のお話で、登別市は早稲田大学マニフェスト研究所が発表する議会改革ランキングにおいて常に上位に位置する自治体であり、特徴的な広報紙の取り組みなどとても興味を持っていたが、話を聞こうにも距離的な関係でなかなか直接お話を聞くことができていなかったのが個人的に大変楽しみにしていた。

気になった取り組みとしては地方議員養成講座について、道庁市町議員や大学教授や道庁職員などの有志が運営し、幅広い年代から様々な職種の受講生に講義が行われ多様な議員を増やすことで結果として住民自治の体現を目指しており、実際に新しい人材が議員になった事例も紹介されていた。

・三重県議会の議会改革については、三重県議会は前述のランキングでこちらも常に上位に位置する取り組みを行っておりその内容について知ることができた。内容としては議会機能の充実と高校生議会の取り組みについて紹介された。

まず予算決算に関する改革について、前年度の決算審査を単なる評価だけでなく翌年度の行政展開方針や予算編成にどうつなげるかに着目し、10月頃に当初予算調製方針を聞き出し、議会が検討状況を調査する取り組みがなされている。これは形式的で形骸的な会派予算要望ではなく、常任委員会において「重点調査項目」を各年度に設定し、それに基づく調査や参考人招致を行い翌年度の当初予算に活かすという仕組みであり議会の機能が大変充実していると感じた。

また、「議会活動計画」を作成し議会基本条例に掲げる議会の機能が果たされているのか議会として自らを評価する必要がある。そして単年度1年と議員任期4年で評価していく流れを設けた。これは行政が事業を行う上で作成必須の計画について議会も活動計画を作成しており、議会のミッションや取り組み内容を設定することで議会の活動の有意義性を改めて検討し議会全体として方向性を決めることで議会機能を常に向上させるための取り組みが行われており、単に行政事業を評価するのみでなく自らを省みる必要があると痛烈に感じた。

高校生県議会については、単なる発表の場にならないように、まずは議会について理解してもらいながら事前に質問作成に向けて議員との相談を重ねることで、主権者教育も兼ねて取り組みが進められている。そして参加者以外の学生へも伝えるための広報紙の配布や、フィードバックもしっかり行うことで学生の意識改革や行動変容に繋がり、政治への関心度を高めることに繋がっていると分析する。本市議会についても子ども議会が行われているが、広がりある取り組みに昇華していく必要があると感じるので見習っていくべきと感じた。

政務活動費 報告書【会派支出】

会派名

次世代長野

3 月分

支払日	令和 7年 3月 29日 30日			
支払先	ローカル・マニフェスト推進連盟			
活動に要 した経費	使途区分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)			円
	研究研修費	研修費	マニフェスト・アワード・コレクション	11,000
	調査旅費			
	資料作成費			
	資料購入費			
	広報・広聴費			
	人件費			
	事務所費			
	その他の経費			
合 計			11,000 円	
(領収書添付欄)				

領収データ - 2025年3月29日（土）・30日（日）Manifesto Awards
Collection（マニフェスト・アワード・コレクション）

発行日	2025年3月27日
宛名	ナイトウ タケミチ
合計	¥11,000
但し	チケット代金
注文日	2025年2月20日
注文番号	29341828
主催者	ローカル・マニフェスト推進連盟 (ローカル・マニフェスト推進連盟)
イベント名	2025年3月29日（土）・30日（日）Manifesto Awards Collection（マニフェスト・アワード・コレクション）



セミナー報告書

■主催

ローカル・マニフェスト推進連盟事務局

■開催日

R7年3月29日(土)30日(日)

■テーマ

Manifesto Awards Collection (マニフェスト・アワード・コレクション)

Day1

「議会基本条例は本当に役立っているのか」

「住民を巻き込む最新事例と改革のポイントを探る」

Day2

「進化する政策づくり」

「市民と連携する投票率向上」

■登壇者

Day1

鶴川 和彦(栗山町議会) 梶澤 幸治(芽室町議会) 菅原 由和(奥州市議会)

江藤 俊昭(大正大学教授)

谷水 雄一(丹波市議会) 日高 昭彦 金丸 勇太(宮崎市議会)

村田 大地(王寺町議会事務局) 千葉 茂明(日本生産性本部上席研究員)

Day2

山口 真一(国際大学准教授) 坪井 遥(チーム安野) 黒川 勝(横浜市議会)

阿部 将大(北海道松前高校) 繁 ハナ子(岐阜県若者の選挙意識を高める会 Novolt)

白川 剛士(松山市選挙管理委員会事務局)

■考察

・本企画は2024年のマニフェスト大賞で受賞された事例について、その実施者を招き解説し議論することで、「地域から日本を変える」ために良い取り組みを広げるための場として開催された。その中で個人的に注目し、本市議会においても参考にすべきと考える取り組みについて挙げて考察していく。

Day1においては「議会基本条例」と「議会改革」の取り組みについて紹介があった。

・奥州市議会の菅原由和議長からは「議会ICT推進方針」についてその取組の事例を紹介された。各種SNSの運営やFM放送の開始など新たな情報発信の取り組みや、LINE WORKS

を用いた緊急時の安否確認においてより効率的な把握に努めている。また、議会だよりに掲載生成 AI も活用している事例は興味深かった。自分は議会としての SNS の運用については消極的である、理由としてはアカウントを管理することの難しさや、得意な議員や特定の議員に押し付けられる可能性や個人の見解を抑えることの大変さを懸念しており、確かにないよりあった方がいいのかもしれないが、中途半端でやっているだけの取り組みにならないように仕組みづくりや議員の資質向上を行うことが重要であると感じる。

個人的に注目した取り組み 1 点目として、**ライブ字幕システム**の導入について、議会の傍聴席への字幕モニター設置や、議会のインターネット中継における対言語対応字幕表示は、手話言語条例を制定する本市において今後必要になってくる取り組みと感じた。

2 点目として議場のオンライン化に伴う**一般質問の資料データの配信**について、本市議会の規定では資料の事前申請や A4 用紙 2 枚までを印刷して用意など、プレゼン資料としていささか活用しづらい点において、データ資料の配信はより一般質問の質を向上させ、飽きさせないプレゼンテーションのような魅力的な意見表明が可能と考えるので、ぜひ検討していきたいと考える。

3 点目として**議会基本条例の見直し**について、今まで評価検証が行われていなかったことを踏まえ、その評価プロセスのスケジュール化に取り組んだ。各議員が自己評価し会派としてまとめ議会運営委員会にて今後取り組むべき事項を精査し、第三者委員会(早稲田大学マニフェスト研究所)の評価も取り入れ**検証報告書**と **PDCA サイクル**の作成を行うこととした。そして根本の条例改正も行い任期(4 年間)ごとに検証を行うことを明記することで、一度だけでは終わらせない新人議員もその見直しと検証が継続的に行われる仕組みを確立した。この取り組みは、議会基本条例が制定以降全くと言っていいほど見直しが行われていない本市議会において危機感をもって取り組むべき最重要課題と考えるのでぜひ声を上げていきたいと考える。そのためにも今回紹介のあった他の自治体議会においても先進的な例を参考に進めていくべきと考える。

・王寺町議会事務局の村田大地氏からは「**議会だよりの改善**」について紹介された。まちづくりの畑から市役所に入庁し、市の広報紙の改革を行った後議会事務局にても広報紙の改革に取り組まれており、ターゲティングの基礎的な設定からいかにして見られるデザインにするかについて**脱報告書**を掲げ全国議会広報コンクール全国トップ 10 に 2 年連続入るようなものに作り替えた事例について解説された。実際にデザイン性が変わったことにより市民から好印象な声が届いたとのことのお話もあり、さらに村田氏自身がその構成を企画でき、市の広報紙でも実績があった強みから議会の賛同も得られ、結果的に議会への関心度を高める機能を果たしていた。

印象的だったことは、議会だよりを堅苦しい詰込み型から「**あなたと議会をつなぐガイドブック**」として、抵抗感なく見てもらえるために、情報の選択とターゲットの明確化は本市議会において必要であると強く感じる。広報広聴委員会に置いてどれほどの議論がなされ

ているのか、まだできていないと捉えているのでぜひ積極的な議論と改善を推し進めるべきと考える。住民に読まれてこそその広報紙でありそのデザイン性の評価や反応を受けていない現状、議会の自己満足にしかすぎないため事業費も大変もったいないと感じる。市の広報紙とは違った議会として広報紙を発行する意味をもう一度立ち返る必要がある。村田氏に質問した際には「プロポーザルで予算とデザインの均衡をとることの重要性」変革には「住民がいかに読んでいなく、デザイン性が悪いとの意見が多いかを示すやり方がある」とのご助言もいただき、積極的に本市議会の議会だよりを改善していくために尽力したいと考える。

Day2において「生成 AI/SNS の活用」と「投票率向上」の取り組みについて紹介があった。

・基調講演として山口真一国際大学准教授の講演がなされた。山口氏は昨今の選挙や政治ニュースにおける SNS の注目度の高まりから起こっているアテンションエコノミー・フィルターバブル・エコーチェンバーの減少から、対立構造が拡散され社会が分断されやすくなっている問題点を指摘した。また生成 AI や誤情報の爆発的な拡散に歯止めが利かない現状において、正確な主張や情報の発信の重要性についても解説された。そして SNS の普及による誹謗中傷問題について、健全な議論を萎縮させ声の強い大きい意見に抑圧され民主主義が危機に瀕しているとの見解も述べられた。議員として発信する側の注意点としていかにして炎上リスクを回避するかについては、適切なブロックミュートは自分の身を守るために時として必要とも述べられていた。

総じて、近年の SNS 上の発信における諸課題をまとめて述べられており、最終的に「社会とのつながりや身近な声を反映させるために SNS は有効な手段であるため、過剰な委縮はせず実態を知り適切に効果的な運用を行うこと」を進められたが、**特効薬はないのだ**と感じ、日々の発信や情報の取得には細心の注意を払う必要があるこれからも気を付けていこうと改めて思った。SNS に一喜一憂することなく。

・チーム安野の坪井遥氏からは「**住民参加型のマニフェストづくり**」について紹介された。昨年の東京都知事選にて注目を集めた安野貴博氏の選挙スタッフとしてどのように政策を作り上げていたのか裏の話を聞けて大変興味深かった。**ブロードリスニング**を用いた住民意見の受信の精度を高め、実際に公約に活かすサイクルを作っており、住民の課題が直接反映される政策の見える化の取り組みは効果的である。そして自由な意見の募集とそれを議論する場を設けることで候補者自身はその責任を負うという組織のトップとしての在り方が上手く作られていると感じた。

これからの選挙や公約づくりにおいてはどの候補もテクノロジーを用いて洗練された政策論争がなされることが予想される。その中で広報者の差別化はようになっていくのか質問したところ「基礎的な政策は似通ることは当然でそれはよい流れと分析する。そのうえで大

きな方針や方向性がまだ定まらない課題について差異を強調し政策論争することが健全な選挙戦になる」との回答を受け、あくまで技術革新を道具として活用し政策を磨くか、そして人間性の発信と組織づくりの大切さを感じた。

・岐阜県若者の選挙意識を高める会 Novolt の繁ハナ子氏は「政治を考える関わる子どもの育成」について解説された。この団体は教育学部生 70 名近くで構成されており、学校や選管や大学が連携し出前授業について磨かれており、いかにして選挙に興味を持たせられるかそして選挙後も公約の関心度を高められるかについて主権者教育としての目標を達成するために活動されていた。

本市においても信州大学の学生団体 STAP による選挙啓発活動が行われていると認識しているが、自分もまだその活動内容について詳しくは理解できておらず、これから議会でも主権者教育が課題として挙げられているため、学生の活動と協調した取り組みにより親しみやすいやり方が期待できるため、検討していきたいと感じた。